

# 宇治群島の自然

## 植 物

### 概 況

大野 照 好

宇治群島は甑島の南方40kmの海上に点在する家島・向島の二島と周囲に散在する多数の岩礁から成り立っている小さな無人島である。

### 1. 家島の植生

家島は周囲約5km、面積約0.61km<sup>2</sup>の南北に長い小島で、最高点は南日岳の96mである。海岸は険しい海食崖によって囲まれているが、南西部に小さな磯海岸が2ヶ所あり、その1つ（通称片浦波止場）は現在避難港となっている。

#### (1) 海岸断崖地植物群落

海岸の断崖地や岩隙地にはハチジョウススキ、ボタンボウフウ、ホソバワダン、オニヤブソテツ、ヒゲスゲ、ツワブキ、サツマノギクなどによって構成されるサツマノギク-ホソバワダン群集が発達している。片浦波止場の岩隙地にはハマトラノオ、ハチジョウススキ、ボタンボウフウ、ヒゲスゲ、ハマナレン、ホソバワダン、オニヤブソテツ、ソナレムグラの混生するハマトラノオ群落が発達している。群落の組成はサツマノギク-ホソバワダン群集と変わらない。

#### (2) 路傍・路上植物群落

片浦波止場はやや平坦な砂礫地が発達しており、避難小屋（作業小屋）も建てられていて一時的に人が生活をしており、人的干渉を受けた植生が発達している。そこにはハチジョウススキ、ツルソバ、ノブドウ、ハマウド、ニオウヤブマオ、ソクズ、ギシギシ、ハマアザミ、カタバミ、ヘクソカズラ、ボタンボウフウ、ホソバワダンなどが生育し、ハチジョウススキ群落、ツルソバ群落、ギシギシ群落、ハマウド群落、ニオウヤブマオ群落、ソクズ群落などが発達している。水湿地にはイグサ群落やイソテンツキ群落なども発達している。

#### (3) 風衝低木群落

海風の影響を強く受ける断崖上にはマルバニッケイ群落が発達している。マルバニッケイの他にハマヒサカキ、オオムラサキシキブ、モクタチバナ、シマグワなどが亜高木状に生育し、低木層にはイヌビワ、ハマビワ、トベラ、ハマヒサカキ、モクタチバナなどが優占している。草本層はツワブキ、ムサシアブミ、ヒゲスゲ、ノシランなどが優占している。最高点の南日岳の南東斜面などにはリュウキュウチク群落が発達している。

#### (4) 山地樹林群落

家島にはシイ・カシ類は1本も見ることではできなかった。家島の片浦波止場に流れる溪流沿いの山地は大部分がモクタチバナ群落によって占められている。モクタチバナ群落はモクタチバナの優占度が極めて高く、亜高木状に生長してハマビワ、タブノキ、イヌビワなど僅かの樹種を混生している。低木層にはトベラ、マサキ、オオムラサキシキブ、マルバグミ、コクテンギなどが見られるにすぎない。草本層はオニヤブソテツ、ムサシアブミ、ナンゴクウラシマソウ、ナンゴクアオイなどが生育している。モクタチバナ群落は風衝低木群落のホソバワダ

ンマルバニッケイ群集に隣接し、ムサシアブミータブ群集やピロウ群落に移行する立地に発達する亜高木林でモクタチバナーマサキ群落にまとめられる群落である。ハマヒサカキの優占する林分がモクタチバナーマサキ群落中に部分的に認められるが、群落の構成種群はモクタチバナーマサキ群落とほとんど変わらない。オニヤブソテツ―ハマビワ群集も発達している。緩傾斜の適潤地にはタブノキが高木状に生長した群落が局部的に認められる。ムサシアブミータブ群集に属する群落と見られるが群落の構成種数が少なく単純である。

## 2. 向島の植生

向島は周囲約10km、面積約1.75km<sup>2</sup>の南北に細長い小島で、最高点は島の北端に位置する清内岳の324.6mである。海岸は険しい海食崖によって囲まれていて島への上陸は容易でない。

### (1) 海岸断崖地植物群落

海岸の断崖地や岩隙地にはサツマノギク―ホソバワダン群落が発達し、ハマアザミ、ニオウヤブマオ、ボタンボウフウ、ハチジョウススキなどが混生している。部分的にハマアザミ群落も発達している。また、ほふく性の小木であるオキナワハイネズ群落も点在的に発達し、ハチジョウススキやボタンボウフウ、オニヤブソテツ、ホソバワダン、クサスギカズラ、ハマボッスなどが混生している。

### (2) 風衝低木群落

常に強風の影響を受ける急斜面や岩崖地には風衝性の低木群落または亜高木群落が発達している。島の東北部の岩崖地にはモクタチバナやハマビワの優占する亜高木群落が発達している。低木層にもモクタチバナやハマビワが優占し、ハマサルトリイバラ、オオムラサキシキブ、コクテンギなどが混生している。草本層はオニヤブソテツ、クワズイモ、ノシランの優占度が高く、ムサシアブミ、アオノクマタケラン、オオイワヒトデなどが混生するオニヤブソテツ―ハマビワ群集にまとめられている群落である。清内岳の山頂部にはトベラーウバメガシ群集やマサキートベラ群集、マルバサツキ群落などの小群落が認められる。トベラーウバメガシ群集はケウバメガシ、シャリンバイ、トベラなどが上層に優占し、下層にはリュウキュウチクが著しく優占し、ムサシアブミやナンゴクウラシマソウ、ノシランなどが混生している。マサキートベラ群集はマサキ、トベラ、シャリンバイ、マルバグミ、ヒサカキ、ネズミモチなどが混生し、下層にはヒゲスゲ、サツマノギク、ヤマカモジグサ、コバノカナワラビ、ノシラン、コヤブランなどが生育している。突き出た岩上にマルバサツキ群落が成立している。この山頂帯に特産のウジカラムツが自生している。

### (3) 高木群落

向島には家島には見られなかったスダジイ群落やピロウ群落が発達している。タブノキ群落やヤブニッケイ群落も見られる。高木層や亜高木層にはマテバシイ、ショウベンノキ、モクタチバナ、ハマビワ、エゴノキ、シマグワ、ヤブツバキ、カクレミノ、サンゴジュ、ホルトノキなどが常在的に優占している。低木層はギョクシンカ、アオキ、モクレイシ、オオムラサキシキブ、マサキ、コクテンギ、ヤツデ、シキミなどが混生している。草本層はオオイワヒトデ、イシカグマ、コバノカナワラビ、オニヤブソテツなどのシダ類やクワズイモ、フウトウカズラ、ムサシアブミ、ノシラン、ナンゴクアオイ、アオノクマタケラン、ハラン、ヒゲスゲなどが優占的に生育している。特に自生のハランは黒島や諏訪瀬島とともに貴重なものであり、ハランを林床にもつスダジイ群落は特記する価値がある。

目 録

川 窪 伸 光

宇治群島の植物相は、迫ら（1988）の最新の報告などでかなりの部分が明らかになった。しかし、家島、向島ともに急峻な地形を備えた無人島であるため、未だ十分な調査が行なわれていないのも事実である。ここでは、現在までに分布が確認されている維管束植物の目録を迫ら（1988）の報告に基づき再録すると共に、1993年9月24・25日に行った家島での調査と、25日に1時間ほど上陸できた向島での調査結果を記録する。なお今回の調査で、家島から新たにサンゴジュ（スイカズラ科）の分布が確認された。

Scientific name	和名	宇治 向島	宇治 家島
PTERIDOPHYTA シダ植物			
Selaginellaceae	イワヒバ科		
<i>Selaginella tamariscina</i> Spring	イワヒバ	○	
Hymenophyllaceae	コケシノブ科		
<i>Crepidomanes latealatum</i> Copel.	アオホラゴケ	○	
<i>Gonocormus minutus</i> K. Iwats.	ウチワゴケ	○	
Pteridaceae	ワラビ科		
<i>Microlepia stnigosa</i> Presl	イシカグマ	○	○
<i>Pteris fauriei</i> Hieron	ハチジョウウシダ		○
Davalliaceae	シノブ科		
<i>Nephrolepis aunriculata</i> Trimen	クマシダ	○	
Aspidiaceae	オシダ科		
<i>Arachniodes aristata</i> Tindale	ホソバカナワラビ	○	
<i>Arachniodes pseudo-aristata</i> Nakaike	コバノカナワラビ	○	
<i>Ctenitis subglandulosa</i> Ching	カツモウイノデ	○	
<i>Cyrtomium falcatum</i> Presl	オニヤブソテツ	○	○
<i>Dryopteris erythrosora</i> O. K.	ベニシダ	○	
<i>Dryopteris varia</i> O. K.	ナンカイイタチシダ	○	
<i>Polystichum lepidocaulon</i> J. Sm	オリズルシダ	○	○
<i>Stenogramma pozoi</i> ssp. <i>mollissima</i> K. Iwats.	ミゾシダ	○	○
<i>Thelypteris acuminata</i> Morton	ホシダ	○	○
Aspleniaceae	チャセンシダ科		
<i>Asplenium antiquum</i> Mak.	オオタニワタリ	○	
Phlypodiaceae	ウラボシ科		
<i>Colysis elliptica</i> Ching	イワヒトデ	○	
<i>Colysis pothifolia</i> Presl	オオイワヒトデ	○	
<i>Colysis wrighti</i> Ching	ヤリノホクリハラン	○	
<i>Colysis x shintenensis</i> H. Ito	シンテンウラボシ	○	
<i>Lemmaphyllum microphyllum</i> Presl	マメヅタ	○	
<i>Lepisorus thunbergianus</i> Ching	ノキシノブ	○	
<i>Lepisorus uchiyamae</i> H. Ito	コウラボシ	○	○
<i>Pyrrosia lingua</i> Farw.	ヒトツバ	○	
Vittariaceae	シシラン科		
<i>Loxogramme salicifolia</i> Mak.	イワヤナギシダ		○
SPERMATOPHYTA 種子植物			
GYMNOSPERMAE 裸子植物			
Pinaceae	マツ科		
<i>Pinus thunbergii</i> Parl.	クロマツ		+
Cupressaceae	ヒノキ科		
<i>Juniperus luchuensis</i> Satake	オキナワハイネズ	○	○
ANGIOSPERMAE 裸子植物			
DICOTYLEDONEAE 双子葉植物			
ARCHICHLAMYDEAE 古生花被区			
Piperaceae	コショウ科		
<i>Pieper kadzura</i> Ohwi	フウトウカズラ	○	○

○：分布，+：帰載逸，▼：北限，※：新記録，—：今回確認

Scientific name	和名	宇治向島	宇治家島
Fagaceae	ブナ科		
Castanopsis sieboldii Yamazaki et Mashiba	スタジイ	○	
Lithocarpus edulis Rehd.	マテバシイ	○	
Quercus phillyraeoides F. wrightii Mak.	ケウバメガシ	○	
Ulmaceae	ニレ科		
Celtis boninensis Koidz.	クワノハエノキ	○	○
Celtis sinensis Pers.	エノキ	○	○
Moraceae	クワ科		
Ficus erecta Thunb.	イヌビワ	○	○
Ficus oxyphylla Miq.	イタビカズラ	○	
Ficus pumila L.	オオイタビ	○	○
Ficus superba var. japonica Comer	アコウ	○	
Morus australis Poir.	シマダワ	○	○
Urticaceae	イラクサ科		
Boehmeria gigantea Satake	ニオウヤブマオ	○	○
Boehmeria nivea var. nipponica Hatu.	カラムシ	○	○
Pilea peploides Hook. & Am.	コケミズ	○	
Balanophoraceae	ツチトリモチ科		
Balanophora tobiricola Mak.	キイレッツチトリモチ	○	
Aristolochiaceae	ウマノスズクサ科		
Asarum crassum Maekawa	ナンゴクアオイ	○	○
Polygonaceae	タデ科		
Polygonum chinense L.	ツルソバ	○	○
Polygonum japonicum Meissn.	シロバナサクラタデ		○
Polygonum longisetum de Bruyn	イヌタデ		○
Rumex japonicus Hoult.	ギシギシ	○	○
Amaranthaceae	ヒユ科		
Achyranthes bidentata var. hachijoensis Hara	ハチジョウイノコズチ	○	○
Nyctaginaceae	オシロイバナ科		
Mirabilis jalapa L.	オシロイバナ		+
Aizoaceae	ザクロソウ科		
Tetragonia tetragonoides O. K.	ツルナ		○
Portulacaceae	スベリヒユ科		
Portulaca oleracea L.	スベリヒユ		○
Caryophyllaceae	ナデシコ科		
Cerastium glomeratum Thuill.	オランダミミナグサ		+
Dianthus kiusianus Mak.	ヒメハマナデシコ	○	○
Sagina maxima A. Gray	ハマツメクサ		○
Stellaria alsine ver. undulata Ohwi	ノミノフスマ	+	
Stellaria aquatica Seop.	ウシハコベ		+
Stellaria media Villas	コハコベ	+	+
Ranunculaceae	キンボウゲ科		
Clematis apiifolia DC.	ボタンヅル	○	
Clematis termiflora DC.	センニンソウ	○	○
Ranunculus silerifolius Lévl	キツネノボタン	○	○
Thalictrum ujiinsulare Hatusima	ウジカラマツソウ	○	
Lardizabalaceae	アケビ科		
Stauntonia hexaphylla Decne.	ムベ	○	○
Menispermaceae	ツヅラフジ科		
Cocculus laurifolius DC.	コウシュウウヤク	○	
Cocculus trilobus DC.	アオツヅラフジ	○	○
Cyclea insularis Hatusima	ミヤコジマツヅラフジ	○	○
Sinomenium acutum Rehd. & Wils.	オオツヅラフジ	○	
Stephania japonica Miers	ハスノハカズラ	○	○
Magnoliaceae	モクレン科		
Illicium anisatum L.	シキミ	○	
Kadzura japonica Dunal	サネカズラ, ビナンカズラ	○	
Michelia compressa Sarg.	オガタマノキ	○	
Lauraceae	クスノキ科		

○ : 分布, + : 帰栽逸, ▼ : 北限, ※ : 新記録, \_ : 今回確認

Scientific name	和名	宇治向島	宇治家島
<i>Cinnamomum daphnoides</i> S. & Z.	マルバニッケイ		○
<i>Cinnamomum pseudo-pedunculatum</i> Hay.	ヤブニッケイ	○	○
<i>Litsea japonica</i> Juss.	ハマビワ	○	○
<i>Persea thunbergii</i> Kosterm.	タブノキ	○	○
Papaveraceae	ケシ科		
<i>Colydalis heterocarpa</i> var. <i>japonica</i> Ohwi	キケマン	○	○
Cruciferae	アブラナ科		
<i>Lepidium virginicum</i> L.	マメグンバイナズナ		+
Crassulaceae	ベンケイソウ科		
<i>Sedum oryzifolium</i> Mak.	タイトゴメ	○	○
Pittosporaceae	トベラ科		
<i>Pittosporum tobira</i> Ait.	トベラ	○	○
Rosaceae	バラ科		
<i>Phaphiolepis indica</i> var. <i>integemima</i> f. <i>umbellata</i> Hatusima	シャリンバイ	○	○
<i>Rosa wichuriana</i> Crep.	テリハノイバラ	○	○
<i>Rubus croceacanthus</i> var. <i>maximowiczii</i> Sugimoto	リュウキュウバライチゴ	○	○
<i>Rubus ribisioides</i> Matsum.	ピロウドカジイチゴ	○	
<i>Rubus sieboldii</i> Bl.	ホウロクイチゴ		○
Leguminosae	マメ科		
<i>Amphicarpaea edgeworthii</i> var. <i>japonica</i> Oliver	ヤブマメ	○	
<i>Bauhinia japonica</i> Maxim.	ハカマカズラ	○	
<i>Canavalia lineata</i> DC.	ハマナタマメ	○	○
<i>Lespedeza formosa</i> var. <i>satsumensis</i> Hatusima	サツマハギ	○	
<i>Medicago hispida</i> Gaertn.	ウマゴヤシ		+
<i>Pueraria lobata</i> Ohwi	クズ	○	○
<i>Rynchosia volubilis</i> Lour.	タンキリマメ	○	○
Oxalidaceae	カタバミ科		
<i>Oxalis comiculata</i> L.	カタバミ	○	○
Euphorbiaceae	トウダイグサ科		
<i>Acalypha australis</i> L.	エノキグサ		+
<i>Euphorbia jolkini</i> Boiss.	イワダイゲキ	○	
<i>Euphorbia supina</i> Rafin.	コニシキソウ		+
<i>Mallotus japonicus</i> Muell.-Arg.	アカメガシワ	○	○
Aquifoliaceae	モチノキ科		
<i>Ilex integra</i> Thunb.	モチノキ	○	○
Celastraceae	ニシキギ科		
<i>Euonymus chibae</i> Mak.	ヒゼンマユミ	○	
<i>Euonymus japonicus</i> Thunb.	マサキ	○	○
<i>Euonymus tanakae</i> Maxim.	コクテンギ	○	○
<i>Microtropis japonica</i> Hall. f.	モクレイシ	○	○
Staphyleaceae	ミツバウツギ科		
<i>Turpinia ternata</i> Nakai	ショウベンノキ	○	
Vitaceae	ブドウ科		
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> bar. <i>hancei</i> Rehd.	テリハノブドウ	○	○
<i>Vitis ficifolia</i> Bunge	エビヅル	○	○
Elaeocarpaceae	ホルトノキ科		
<i>Elaeocarpus sylvestris</i> Poir.	ホルトノキ	○	○
Malvaceae	アオイ科		
<i>Hibiscus mutabilis</i> L.	フヨウ	○	○
Theaceae	ツバキ科		
<i>Camellia japonica</i> L.	ヤブツバキ	○	
<i>Eurya emarginata</i> Mak.	ハマヒサカキ	○	○
<i>Eurya japonica</i> Thunb.	ヒサカキ	○	
Violaceae	スミレ科		
<i>Viola grypoceras</i> f. <i>lucida</i> F. Maek.	ツヤスミレ	○	○
<i>Viola yezoensis</i> var. <i>pseudo-japonica</i> Hatusima	タイワンコスミレ		○
Stachyuraceae	キブシ科		
<i>Stachyurus praecox</i> var. <i>lancifolius</i> Hara	ナンバンキブシ	○	
Thymelaeaceae	ジンチョウゲ科		

○：分布， +：帰栽逸， ▼：北限， ※：新記録， \_：今回確認

Scientific name	和名	宇治向島	宇治家島
<i>Daphne kiusiana</i> Miq.	コショウノキ	○	
Elaeagnaceae	グミ科		
<i>Elaeagnus macrophylla</i> Thunb.	マルバグミ	○	○
<i>Elaeagnus umbellata</i> var. <i>rotundifolia</i> Mak.	マルバアキグミ	○	○
Araliaceae	ウコギ科		
<i>Dendropanax trifidus</i> Mak.	カクレミノ	○	
<i>Fatsia japonica</i> Decen. & Planch.	ヤツデ	○	○
<i>Hedera rhombea</i> Bean	キヅタ	○	
Umbelliferae	セリ科		
<i>Angelica japonica</i> A. Gray	ハマウド	○	○
<i>Centella asiatica</i> Urban	ツボクサ		○
<i>Peucedanum japonicum</i> Thunb.	ボタンボウフウ	○	○
Cornaceae	ミズキ科		
<i>Aucuba japonica</i> Thunb.	アオキ	○	
METACHLAMYDEAE 後生花被区			
Ericaceae	ツツジ科		
<i>Rhododendron simsii</i> var. <i>tamurae</i> Kanenh. & Hatusima	マルバサツキ	○	
<i>Rhododendron tashiroi</i> var. <i>lasiophyllum</i> Hatusima	アラゲサクラツツジ	○	
Myrsinaceae	ヤブコウジ科		
<i>Ardisia sieboldii</i> Miq.	モクタチバナ	○	○
Primulaceae	サクラソウ科		
<i>Lysimachia japonica</i> Thunb.	コナスビ		○
<i>Lysimachia mauritiana</i> Lamk.	ハマボッサ	○	○
Plumbaginaceae	イソマツ科		
<i>Limonium wrightii</i> f. <i>arbusculum</i> Hatusima	イソマツ	▼	
Styracaceae	エゴノキ科		
<i>Styrax japonica</i> S. & Z.	エゴノキ	○	
Oleaceae	モクセイ科		
<i>Ligustrum japonicum</i> Thunb.	ネズミモチ	○	
<i>Osmanthus insularis</i> Koidz.	ナタオレノキ, シマモクセイ	○	
Gentianaceae	リンドウ科		
<i>Swertia tashiroi</i> Mak.	ヘツカリンドウ		○
Apocynaceae	キョウチクトウ科		
<i>Anodendron affine</i> Druce	サカキカズラ	○	○
<i>Trachelospermum asiaticum</i> Nakai	テイカカズラ	○	○
Asclepiadaceae	ガガイモ科		
<i>Cynanchum japonicum</i> f. <i>puncticulatum</i> Ohwi	クロバナイヨカズラ	○	○
<i>Marsdenia tomentosa</i> Morr. & Decne.	キジョラン	○	
<i>Stephanotis luchuensis</i> Koidz.	オキナワシタキソウ	○	○
<i>Tylophora tanakae</i> var. <i>glabrescens</i> Yamazaki	ケナシツルモウリンカ	○	○
Convolvulaceae	ヒルガオ科		
<i>Calystegia soldanella</i> Roem. & Schult.	ハマヒルガオ	○	○
Boraginaceae	ムラサキ科		
<i>Bothriospermum tenellum</i> Fisch. & Mey.	ハナイバナ	○	○
Verbenaceae	クマツヅラ科		
<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i> Rehd.	オオムラサキシキブ	○	○
<i>Phyla nodiflora</i> Greene	イワダレソウ		○
<i>Vitex rotundifolia</i> L. f.	ハマゴウ		○
Labiatae	シソ科		
<i>Ajuga pygmaea</i> A. Gray	ヒメキランソウ	○	○
<i>Scutellaria parvifolia</i> Koidz.	コバノタツナミ	○	○
<i>Teucrium viscidum</i> Bl.	コニガクサ		○
Solanaceae	ナス科		
<i>Solanum biflorum</i> Lour.	メジロホウズキ	○	
<i>Solanum lyratum</i> Thunb.	ヒヨドリジョウゴ	○	○
<i>Tubocapsicum anomalum</i> Mak.	ハダカホウズキ	○	○
Scrophulariaceae	ゴマノハグサ科		
<i>Veronica sieboldiana</i> Miq.	カントラノオ	○	○
Orobanchaceae	ハマウツボ科		

○ : 分布, + : 帰栽逸, ▼ : 北限, ※ : 新記録, \_ : 今回確認

Scientific name	和名	宇治向島	宇治家島
<i>Aeginetia indica</i> L.	ナンバンギセル	○	○
Plantaginaceae	オオバコ科		
<i>Plantago asiatica</i> L.	オオバコ		○
Rubiaceae	アカネ科		
<i>Damnacanthus indicus</i> var. <i>parvifolius</i> Koidz.	コバノジュネノキ	○	
<i>Galium spurium</i> f. <i>strigosum</i> Kitagawa	ヤエムグラ	○	○
<i>Gardenia jasminoides</i> var. <i>grandiflora</i> Nakai	クチナシ	○	○
<i>Hedyotis coreana</i> Lév.	ソナレムグラ	○	○
<i>Paedenia scandens</i> Merr.	ヘクソカズラ	○	○
<i>Tarenna gracilipes</i> Ohwi	ギョクシンカ	○	○
Caprifoliaceae	スイカズラ科		
<i>Lonicera affinis</i> Hook. & Arn.	ハマニンドウ	○	○
<i>Sambucus chinensis</i> Lindl.	ソクズ	○	○
<i>Viburnum japonicum</i> Spreng.	ハクサンボク	○	
<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i> K. Kock	サンゴジュ	○	※
Cucurbitaceae	ウリ科		
<i>Gynostemma pentaphyllum</i> Mak.	アマチャヅル	○	○
<i>Trichosanthes sinopuncata</i> C. Y. Cheng & C. H. Yueh	オオカラスウリ		○
Compositae	キク科		
<i>Ainsliaea macroclinidioides</i> var. <i>okinawensis</i> Kitam.	オキナワテイショウソウ	○	
<i>Artemisia indica</i> var. <i>orientalis</i> Hara	ニシヨモギ		○
<i>Aster ageratoides</i> ssp. <i>amplexifolius</i> Kitam.	イナカギク, ヤマシロギク		○
<i>Aster ujiense</i> Kitam.	オオイソギク	○	○
<i>Cirsium spinosum</i> Kitam.	オイランアザミ	○	○
<i>Conyza bonariensis</i> Crong.	アレチノギク		+
<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> Nakai	ホソバワダン	○	○
<i>Crepidiastrum lanceolatum</i> f. <i>pinnatilobum</i> Nakai	ハマナレン		○
<i>Dendranthema ornatum</i> Kitam.	サツマノギク	○	
<i>Eclipta prostrata</i> L.	タカサブロウ		○
<i>Eupatorium variabile</i> Mak.	ヤマヒヨドリ	○	○
<i>Farfugium japonicum</i> Kitam.	ツワブキ	○	○
<i>Gnaphalium pensylvanicum</i> Willd.	チチコグサモドキ		+
<i>Siegesbeckia orientalis</i> L.	ツクシメナモミ		○
<i>Sonchus oleraceus</i> L.	ハルノノゲシ	+	+
<i>Youngia japonica</i> DC.	オニタビラコ	○	○
MONOCOTYLEDONEAE 単子葉植物			
Gramineae	イネ科		
<i>Agropyron tsukushiense</i> var. <i>tansiens</i> Ohwi	カモジグサ	○	○
<i>Brachypodium sylvaticum</i> var. <i>miserum</i> Koidz.	ヤマカモジグサ	○	○
<i>Cynodon dactylon</i> Pers.	ギョウギシバ		○
<i>Digitaria ciliaris</i> Koel.	メヒシバ		○
<i>Echinochloa crus-galli</i> P. Beauv.	イヌビエ		○
<i>Eleusine indica</i> Gaertn.	オヒシバ		+
<i>Ischaemum aristatum</i> L.	タイワンカモノハシ		○
<i>Miscanthus sinensis</i> var. <i>condensatus</i> Mak.	ハチジョウススキ	○	○
<i>Oplismenus compositus</i> P. Beauv.	エダウチジミザサ	○	○
<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>japonicus</i> Koidz.	コチジミザサ		○
<i>Pleioblastus linearis</i> Nakai	リュウキュウチク	○	○
<i>Poa annua</i> L.	スズメノカタビラ		+
<i>Polypogon monspeliensis</i> Desf.	ハマヒエガエリ		○
<i>Pseudosasa japonica</i> Mak.	ヤダケ	○	
<i>Setaria glauca</i> var. <i>pallide-fusca</i> T. Koyama	コツブキンエノコロ		○
<i>Setaria viridis</i> var. <i>pachystachys</i> Mark. & Nemoto	ハマエノコロ	○	○
<i>Sporobolus fertilis</i> W. D. Clayton	ネズミノオ		○
<i>Zoysia matrella</i> var. <i>pacifica</i> Goudswaerd	コウライシバ	○	○
Cyperaceae	カヤツリグサ科		
<i>Carex breviculmis</i> var. <i>discoidea</i> Boott	コアオスゲ, ヒメアオスゲ		○
<i>Carex conica</i> var. <i>latifolia</i> Hatsu.	ウジカンスゲ?	○	
<i>Carex dimorpholepis</i> Steud.	アゼナルコスゲ		○

○ : 分布, + : 帰栽逸, ▼ : 北限, ※ : 新記録, \_ : 今回確認

Scientific name	和名	宇治向島	宇治家島
<i>Carex ischnostachya</i> var. <i>fastigiata</i> T. Koyama	オキナワジュズスゲ		○
<i>Carex japonica</i> var. <i>chlorostachys</i> Kükenth.	シラスゲ		○
<i>Carex makinoensis</i> Franch.	イワカンスゲ	○	○
<i>Carex matsumurae</i> Franch.	キノケニスゲ	○	○
<i>Carex wahuensis</i> var. <i>robusta</i> Fr. & Sav.	ヒゲスゲ	○	○
<i>Cyperus brevifolius</i> var. <i>leiolepis</i> T. Koyama	ヒメクグ		○
<i>Cyperus compressus</i> L.	クグガヤツリ		○
<i>Cyperus polystachyos</i> Rottb.	イガガヤツリ		○
<i>Fimbristylis sieboldii</i> Miq.	イソヤマテンツキ		○
Palmae	ヤシ科		
<i>Livistona chinensis</i> var. <i>subglobosa</i> Becc.	ビロウ	○	○
Araceae	サトイモ科		
<i>Alocasia odra</i> Spach	クワズイモ	○	○
<i>Arisaema japonicum</i> Bl.	マムシグサ	○	○
<i>Arisaema ringens</i> Schott	ムサシアブミ	○	○
<i>Arisaema thunbergii</i> Bl.	ナンゴクウラシマソウ	○	
Commelinaceae	ツユクサ科		
<i>Commelina benghalensis</i> L.	マルバツユクサ		○
<i>Commelina communis</i> L.	ツユクサ		○
<i>Pollia miranda</i> Hara	コヤブミョウガ	○	
Juncaceae	イグサ科		
<i>Juncus effusus</i> var. <i>decipiens</i> buchen.	イ		○
Litiaceae	ユリ科		
<i>Asparagus cochinchinensis</i> Merr.	クサスギカズラ	○	○
<i>Aspidistra elatior</i> Bl.	ハラン	○	
<i>Heterosmilax japonica</i> Kunth	カラスギバサンキライ	○	
<i>Liriope muscari</i> Bailey	ヤブラン	○	○
<i>Ophiopogon jaburan</i> Lodd.	ノシラン	○	○
<i>Smilax bracteata</i> Presl	サツマサンキライ	○	
<i>Smilax sebeana</i> Miq.	ハマサルトリイバラ	○	
Amaryllidaceae	ヒガンバナ科		
<i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i> Baker	ハマオモト	○	○
<i>Narcissus tazetta</i> var. <i>chinensis</i> Roem.	スイセン		+
Dioscoreaceae	ヤマノイモ科		
<i>Dioscorea asclepiadea</i> Prain & Burkill	ツクシタチドコロ		○
<i>Dioscorea bulbifera</i> L.	ニガカシユウ		○
Zingiberaceae	ショウガ科		
<i>Alpinia intermedia</i> Gagenp.	アオノクマタケラン	○	○
Orchidaceae	ラン科		
<i>Amitostigma lepidum</i> Schltr.	オキナワチドリ		○
<i>Luisia teres</i> Bl.	ボウラン		○

### 参考文献

- 内藤喬・新敏夫. 1954. 宇治群島及び草垣島の植物相(予報). 鹿児島大学理科報告, 3, 15-40.
- 迫静男・丸野勝敏・永徳亨・西井田光広. 1988. 宇治群島の植物相. 鹿児島大学演習林報告, 16, 83-108.
- 川窪伸光・田川日出夫. 1991. 南西諸島北部域, 薩南諸島における維管束植物の分布. 南西諸島における野性生物の種の保存に不可欠な諸条件に関する研究報告書, 51-109, 環境庁



# 昆 虫

日 程：1993. IX. 24～25

調査者：江平憲治

内 容：採集又は目撃した種類は次の通りである。なお、\*のついた種は夜間燈火採集（24日）で得られたものである。チョウ目のガ類については、大坪博文氏（鹿児島昆虫同好会）に同定していただいた。

目 名	科 名	種 名
チョウ目	セセリチョウ科	イチモンジセセリ
	シロチョウ科	キチョウ
	シジミチョウ科	アマミウラナミシジミ
	タテハチョウ科	ツماغロヒョウモン
		ヒメアカタテハ
	メイガ科	*モンキシロノメイガ
		*ワタヘリクロノメイガ
		*ミツシロモンノメイガ
		*アワノメイガ
	シャクガ科	*サザナミシロアオシャク
	スズメガ科	*エビガラスズメ
	ヤガ科	*アサケンモン
		*オオタバコガ
		*カブラヤガ
		*オオバコヤガ
		*ハマオモトヨトウ
		*アワヨトウ
		*スジシロキヨトウ
		*ハスモンヨトウ
*スジキリヨトウ		
*ヒメサビスジヨトウ		
*シロイチモジヨトウ		
*オオホシミミヨトウ		
*イチジクキンウワバ		
*オオウンモンクチバ		
*ワタアカキリバ		

チョウ目	ヤガ科	*アカキリバ *キンモンエグリバ *オオエグリバ *ヒメエグリバ *アカエグリバ *アカテックチバ	
	ドクガ科	*ゴマフリドクガ	
	ヒトリガ科	*スジモンヒトリ	
	バッタ目	カマドウマ科	カマドウマ
		コオロギ科	マツムシ (鳴き声だけ)
	カマキリ目	カマキリ科	ハラビロカマキリ
	ゴキブリ目	マダラゴキブリ科	サツマゴキブリ (幼虫)
	カメムシ目	セミ科	クロイワツクツク ツクツクボウシ (鳴き声だけ)
		ナガカメムシ科	*ジュウジナガカメムシ
		オオホシカメムシ科	*ヒメホシカメムシ *オオホシカメムシ
キンカメムシ科		オオキンカメムシ	
カメムシ科		*チャバネアオカメムシ	
トンボ目		イトトンボ科	アジアイトトンボ
		トンボ科	ウスバキトンボ (目撃)
コウチュウ目		ゴミムシ科	*クロヘリアトキリゴミムシ *オオアトボシアオゴミムシ
		コガネムシ科	*フタスジカンショコガネ *アオドウガネ
		テントウムシ科	ニジュウヤホシテントウ オオフタホシテントウ
	カミキリムシ科	*ワモンサビカミキリ	
	ハチ目	スズメバチ科	キアシナガバチ

考察：宇治島には小さな河川があり、水生昆虫の採集を試みたがヤゴなどはまったく確認できなかった。近辺には、普通ならよく見かけるシオカラトンボやオオシオカラトンボの成虫の姿も見られなかった。山頂付近にアジアイトトンボが数頭生息していたが、近くに発生場所と思われる池らしいものはなく、島外から飛来してきたものではないかと思われる。

## 鳥 類

### 鮫 島 正 道

宇治群島は甌島の南方、北緯31° 12′，東経129° 29′ に位置し、薩摩半島の野間岬から約70 kmの地点にある小さな群島である。家島と向島の主2島とその付近の小岩島からなっている。いずれの島も無人島であるが、家島には漁船のための避難港があり、避難小屋もある。各島の周囲は険しい断崖になっており、砂浜は発達しない。向島の最高峰は清内岳の319m，家島は95mで灯台がある。この宇治群島は草垣諸島とならび渡り鳥の中継地点として重要な島である。

宇治群島の鳥類については迫による詳細な調査があり、これまでに30科98種の鳥類が記録されている。今回、1993. 9. 24と25の両日にわたり鳥類観察の機会を得た。短期間で一人の記録であり、渡り鳥の通過時期としては早いせいか出現種の数に限界があったが、ここでは2日間の観察と定位観察法による調査の結果を合わせて概要を述べる。

調査時に出現した種の鳥類目録

ペリカン目 PELECANIFORMES

カツオドリ科 SULIDAE

カツオドリ *Sula leucogaster plotus* (Forster)

コウノトリ目 CICONIFORMES

サギ科 ARDEIDAE

コサギ *Egretta garzetta garzetta* (Linnaeus)

クロサギ *Egretta sacra sacra* (Gmelin)

アオサギ *Ardea cinerea jouyi* Clark

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

ミサゴ *Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus)

トビ *Milvus migrans lineatus* (J. E. Gray)

ハヤブサ科 FALCONIDAE

ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis* Gmelin

チョウゲンボウ *Falco tinnunculus interstinctus* Horsfield

チドリ目 CHARADRIIFORMES

シギ科 SCOLOPACIDAE

アオアシシギ *Tringa nebularia* (Gunnerus)

イソシギ *Tringa hypoleucos* Linnaeus

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 COLUMBIDAE

カラスバト *Columba janthina janthina* Temminck

スズメ目 PASSERIFORMES

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

ツバメ *Hirundo rustica gutturalis* Scopoli

セキレイ科 MOTACILLIDAE

キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (Brehm)

ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* Gloger

モズ科 LANIIDAE

モズ *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

イソヒヨドリ *Monticola solitarius philippensis* (Müller)

ウグイス *Cettia diphone cantans* (Temminck & Schlegel)

サンコウチョウ *Terpsiphone atrocaudata atrocaudata* (Eyton)

メジロ科 ZOSTEROPIDAE

メジロ *Zosterops japonica japonica* Temminck & Schlegel

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

アオジ *Emberiza spodocephala personata* Temminck

カラス科 CORVIDAE

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos japonensis* Bonaparte

上記の6目13科21種であった。

今回の調査でサギの仲間最大のアオサギが追加されたが、他のすべては既に迫によって記録されている種であった。

家島の避難小屋周辺において1993. 9. 25の6:00~7:00の間、定位観察法による調査を行った。その結果を表1に示す。

1993年の9月25日現在では渡り鳥(冬鳥・夏鳥)は極端に少なく、本格的な渡りが始まっていないように思えた。

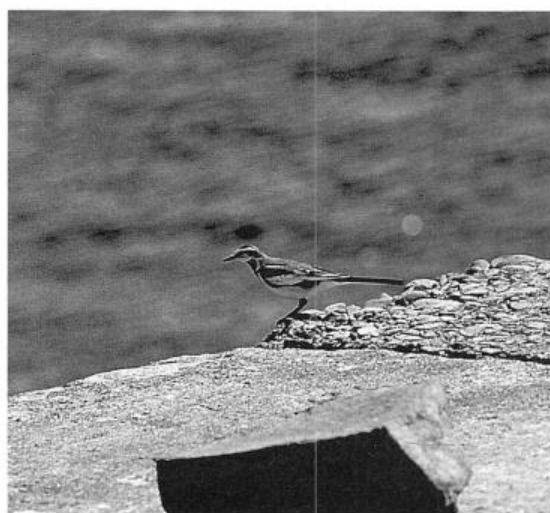
今回の宇治群島の調査時期の鳥相は、(1)生物(鳥類)季節 phenology(その地方にすみ、あるいは出現する鳥類の移動や繁殖の季節的な研究)の観点からみると、5種が留鳥、2種が漂鳥、1種が夏鳥、1種が冬鳥であった。(2)鳥類個体群 avian population(その地方の鳥類の数量的および生産的な研究)の観点からみると、定位観察法の表1で平均優占度は、ハシブトガラスが50%で最も多く、次いでメジロ、トビであり、これらの種ですでに80%を占めている。このように2~3種の鳥が優占種となるのは、とくに各地の島の鳥相に共通な現象であるとされている。(3)鳥類群集 bird community(その地方の鳥類の環境や相互関係)について述べると、森林鳥類群集、草原鳥類群集、移水帯鳥類群集、内(淡)水面鳥類群集、外(塩)水面鳥類群集の一部をすべてを有しており、いろいろな環境にすんでいる鳥(渡り鳥)の中継点となっている島嶼の鳥相の特徴を示しているように思える。

今回、1993. 9. 24と25の両日にわたり観察された鳥類の中には天然記念物に指定された種はないが、特殊鳥類として「レッドデータブック」(日本の絶滅のおそれのある野生生物)の掲載種の危急種のミサゴ、ハヤブサ、カラスバトが含まれている。

宇治群島は草垣諸島と並び、渡り鳥の中継点にもなっており、重要な地点である。今後とも、時期を変えた詳細な調査が必要と思える。

表1 定位観察法により確認された調査地域の鳥類

種名	観察時期 ('93, 9/25) 6:00~7:00		備考
	総個体数	平均優占度	
1 ハシブトガラス	38	50.00	留鳥
2 メジロ	13	17.11	留鳥
3 トビ	10	13.16	留鳥
4 キセキレイ	6	7.89	留鳥・漂鳥
5 ツバメ	4	5.26	夏鳥
6 カラスバト	2	2.63	留鳥
7 アオサギ	1	1.32	漂鳥
8 イソヒヨドリ	1	1.32	留鳥
9 ハクセキレイ	1	1.32	冬鳥
9種	76個体		



ハクセキレイ 1993. 9. 25



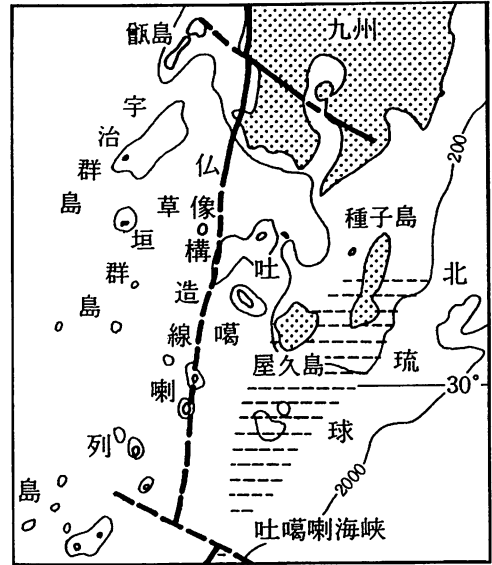
ハシブトガラス 1993. 9. 25

# 地 質

## 1 地質構造的な位置

四万十層群の北西限すなわち仏像構造線は甌島・宇治・草垣群島と屋久島の間をとっており宇治群島は内帯の白亜系が露出していると考えられている。

波多江（1955）は琉球列島の地質区分について、内側から旧期火山帯、これに平行する中・新期火山帯、古期岩帯、新第三系帯の4帯に分けた。それによると宇治群島は旧期火山帯に属し新第三紀の火山岩を特徴とする地帯に入る。



地質構造図（木崎甲子郎，1985）

## 2 宇治群島の地質状況

### (1) 宇治島（家島）

家島全体は安山岩でできた島で、溶岩および凝灰角れき岩からなっており、海岸沿いの切り立った崖では溶岩と凝灰角れき岩の互層がみられる。

それらを覆うシラスなどの火砕流堆積物や新期の火山灰層は確認できなかった。

港では安山岩および凝灰角れき岩が分布し、安山岩には流理構造の発達したものや長石の結晶が目立つものなどいろいろな種類がある。凝灰角れき岩のれきは安山岩である。また、港周辺の岩石は変質して緑色がかっており、石英脈も走っている。

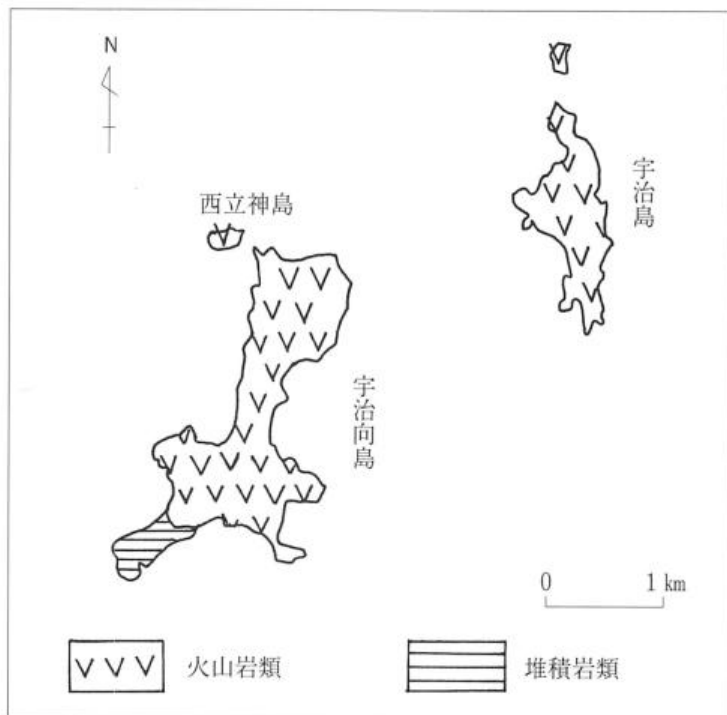
変質安山岩などの存在より家島の火山岩類は、南薩・枕崎周辺から南方の宇治群島・草垣群島および小宝島・宝島などにも分布している変質安山岩と同様、グリーンタフ活動の影響を受けた火山岩類であると考えられる。

### (2) 宇治向島

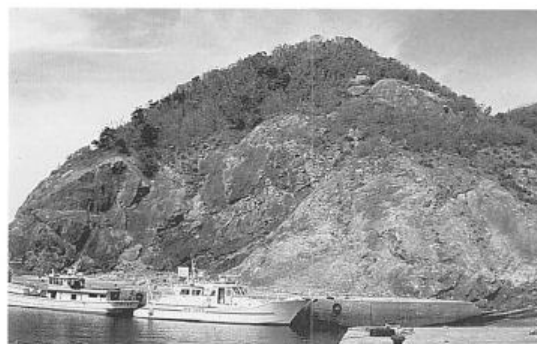
波が高く、上陸は1カ所しかできず活動範囲はごく狭い範囲に限定された。船上から見た地質状況は島の東側は火山岩の産状を呈している。

島の南西側には堆積岩が露出しており、この堆積岩を火成岩が貫いている露頭も観察される。堆積岩はけつ岩・砂岩で、けつ岩の中にはサンドパイプの痕跡化石が見られる。丹念に捜すといろいろな化石も発見できる可能性がある。

この堆積岩は甌島に分布する姫浦層群（白亜紀）や上甌島層群（古第三紀）と類似するものと考えられるが、詳しい調査がされていないので関係はよく分かっていない。



宇治群島の地質図（鹿児島県地質図，1990）



宇治島 港  
溶岩と凝灰角礫岩の境界



宇治向島 波多江岬  
堆積岩が分布している



宇治群島 西立神島  
(地質図では火山岩となっているが、  
堆積岩ではないかと思われる)



宇治島 南日岳下の海岸  
小断層がみられる